

TMPU Family

東北医科薬科大学報

2023.7

vol.41



新学長挨拶

コロナパンデミックの収束と
医療系総合大学としての新たな出発

医学部より

授業の実施状況

薬学部より

ベストティーチャー賞・グッドティーチャー賞受賞者決定

コロナ禍以前と同様の授業風景が戻ってきました

CONTENTS

理事長挨拶	1
新学長挨拶	1

大学より	2
大学関係	2
令和5年度東北医科薬科大学入学宣誓式	2
新入生オリエンテーション	3
令和4年度学部卒業証書・学位記並びに大学院学位記授与式	3
学生支援関係	2
支援室の設置について	2
保健管理センターの利用(小松島・福室)	2
学生相談室の対応	2
特別奨学金について(薬学部対象)	2
令和4年度奨学金受給状況	3

医学部より	4
新医学部長挨拶	4
授業の実施状況	4
第117回医師国家試験結果	4
共用試験(CBT・OSCE)について	4
白菊会について	5
進級基準	5
医学部後期行事予定	5
臨床研修について	6
医学部卒業生交流支援センター	6

薬学部より	7
薬学部長挨拶	7
第108回薬剤師国家試験結果	7
実務実習について	7
ベストティーチャー賞・グッドティーチャー賞受賞者決定	7
進級基準	8
薬学部後期行事予定	8
令和4年度就職(進学)状況	9
令和4年度合同就職説明会開催	9
令和5年度薬学部キャリア・就職支援行事	9

教養教育センターより	10
教養教育センター長挨拶	10
科目紹介(ドイツ語学教室)	10

図書館より	10
図書寄贈御礼(二松会)	10
令和4年度図書館利用状況・蔵書統計報告	10

大学院より	11
医学研究科について	11
薬学研究科令和4年度大学院学位記授与関係	11

入試センターより	11
令和5年度入学者選抜結果	11

附属病院より	12
本院より	12
統括病院長就任挨拶	12
新型コロナウイルス感染症の5類移行による運用変更について	12
「マイナ受付」の運用開始について	12
化学療法室の拡張と泌尿器科診察室の増設について	12
若林病院より	13
仙台市主催「地域でつながる健幸づくりフェアin卸町」に参加しました	13
CT及びマンモグラフィ装置を更新	13
高校生より花束贈呈	13

法人より	14
令和5年度事業計画・令和4年度事業報告	14
令和4年度決算	14
役員及び評議員の概要	15
令和4年度外部資金獲得状況	15

医薬連携など	16
医薬研究交流会	16
教育連携協議会について	16
早期体験学習	16

トピックス	
受賞	16
永年勤続者表彰について	17
表彰・感謝状	17
部活動報告	17

教室紹介	
医学部 内科学第二(糖尿病代謝内科)教室	17
薬学部 機能形態学教室	17

同窓会より	巻末
叙勲	巻末
第6回ホームカミングデイのお知らせ	巻末

二松会より	巻末
-------	----

令和5年度在学生保護者教育懇談会開催案内	巻末
----------------------	----

ご寄付のお願い(教育研究協力資金)	巻末
-------------------	----

理事長挨拶

学長の退任にあたって

理事長 高柳元明



キャンパスの緑が明るい陽光に輝き、まだまだマスク姿が多いとはいえ、賑やかな学生たちの声が学内に溢れる日々が戻ってきています。

私は3月末で学長職を退き、4月から本学は後任の大野学長のもと、着実に歩みを進めております。私自身は、今後は理事長として大学全体を見守り、学生、教職員が快適に勉学、研究に専念できるような環境を整備しながら、本学が一層充実発展していくように大学の運営、経営に専念していくつもりです。特に学内では教職員間の融和を保ちつつ、穏やかな中にも教育、研究における厳しさと競争的な環境をつくっていくことが最も望まれるでしょう。振り返ってみれば約20年間、理事長職とともに学長職を務めてきましたが、これもひとえに在学学生や保護者の方々、同窓生、それに教職員の皆さんのおかげと感謝する次第です。今後も皆様の多大なご支援、ご協力を得て大学の更なる発展に努めてまいります。ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

20年という長い間には科学の技術革新による世の中の大きな進歩と時代の大きな変化があり、特にこの10年間は激流ともいえる荒波が次々と我々に押し寄せているように思います。

東日本大震災にはじまる自然災害の多発、そして全く予想していなかった丸3年にも及ぶコロナのパンデミックは、我々の精神にも深刻な傷跡を残しているように思います。このまま終息へ向かうのか、今もって判然としませんが、少しマスクをはずして大きな深呼吸をするべき時期になったように思います。加えて、昨年からのこの1年は、ロシアのウクライナ侵攻が続く、国土がいかに簡単に焦土と化していくのかをまざまざとテレビ報道を通して見せつけられました。戦争とはこういう風にして起り拡大していくのかと、我々自身が戦場にいるような気持ちでこの1年を送ってきました。脳裏に刻まれたこの記憶は平和な日本にいる我々にとって生涯忘れることはできません。

さて、今後の私学にとっての大きな課題は、少子化による志願者減少という大学の存続が脅かされる社会環境の変化であり、また今国会で可決された改正私学法への対応で要となる大学のガバナンスの強化でしょう。このことに私どもは正面から臨む必要があります。これからの困難な道を皆さんと力を合わせ、東北地方の地域医療を支えるという本学の使命を果たすべく進んでいくつもりです。

新学長挨拶

コロナパンデミックの収束と 医療系総合大学としての新たな出発

学長 大野勲



本年4月、前任の高柳元明学長・理事長(現 理事長)の後を受け、学長を拝命致しました。本学教員として、薬学部(平成15～27年)さらに医学部(平成28年～)で教学に携わってまいりました。この両学部での経験を活かして、本学の更なる発展に全力を尽くしてまいりますので、ご支援、ご指導の程、よろしくお願い致します。

さて、令和2年年明けから本格化した新型コロナ感染症が漸く収束したことを受け、令和5年度の入学式を保護者の皆様のご列席のもと、コロナパンデミック前の規模で挙行することができました。5月には第5類感染症となったことから、大学病院を除き、マスク着用が個人判断になり、授業も基本的に対面で実施されるなど、徐々にコロナ以前のキャンパス生活に戻りつつあります。

医学・薬学教育にも大きな変化が起きています。令和4年度に改定された医学・薬学の教育モデル・コア・カリキュラムでは、修得

すべき資質が医療人として共通のものとなりました。現在、令和6年度の新カリキュラムを両学部で策定中ですが、本学の特徴である医学・薬学教育の連携を更に進める好機と考えています。例えば、解剖学、薬理学などの基礎医学と基礎薬学における連携教育、さらに、大学病院での薬物治療における医師と薬剤師の多職種連携教育など、医療人育成のための効果的なカリキュラムとします。

本学は、本年4月の大学院医学研究科の開設により、2学部(医学部、薬学部)、2大学院研究科(医学、薬学)、2大学病院(東北医科薬科大学病院、若林病院)を有する医療系総合大学となりました。本学が果たすべき役割はますます大きくなるものと思われま。我々教職員は、社会環境の変化に対応しながら、教育研究の質を向上させ、医学・薬学の様々な分野で活躍する人材の育成を通じて、本学の使命を今後も確実に果たして参ります。

大学関係

◆令和5年度東北医科薬科大学入学宣誓式

入学宣誓式を令和5年4月5日(水)10時から本山製作所青葉アリーナ(青葉体育館)において挙行し、医学部100名、薬学部335名、大学院医学研究科19名、大学院薬学研究科10名、総計464名の新入生を迎えました。この度の入学宣誓式は、新入生及び保護者の皆様を一堂に会して行われました。

大野勲学長は、学長告辞の中で「勉学や友人との交流の中で、常に自らを見直し、変化、成長していく自分を感じながら、今日から始まる貴重な人生の一時期を、大事に過ごしてください。」と述べられ、高柳元明理事長は、理事長祝辞の中で「感染症の大流行や自然災害に直面すると医療の重要性が改めて認識されると同時に、医療現場の厳しさやその中で使命感を持って奮闘する医療従事者の姿がクローズアップされます。みなさんがそうした状況の中で、強い意志と高い志を持って医療の世界を目指し、本学の学生となられたことを、私たち教職員一同、大変嬉しく、また頼もしく思っております。」と述べられました。

また、ご来賓を代表し、金親正知二松会会長より激励の御祝辞を賜りました。

続いて、新入生代表の高橋航大さんが「本学学則を堅くまもり人格の陶冶につとめ学業に専心することを誓います」との宣誓を行いました。

その後、校歌紹介が行われ、式は滞りなく終了いたしました。教職員一同、新入生の皆様のご入学を心よりお祝い申し上げます。



令和5年度東北医科薬科大学入学宣誓式の様子

学生支援関係

◆支援室の設置について

障がいや病気により授業や学生生活での困りごとがある場合に一元的に対応する組織として、令和5年度より「支援室」を立ち上げました。窓口は小松島キャンパス学務部学生課、福室キャンパス医学部事務部教務課となっていますので、障がいや病気により修学上の困りごとがある場合は、所属キャンパスの窓口へご相談ください。

配慮の申請にあたっては、まず学生と支援室で面談を実施し、困りごとの原因は何か、どのような支援・配慮が必要かなどを整理します。その上で「授業・試験・生活等に関する合理的配慮要望書」を提出いただきます。この際、学生の障がいの状況を適切に把握するため、診断書や主治医意見書などの障がいに関する根拠資料も併せて提出いただきます。

教育機関として適切な配慮を実施するために、学生の要望や教育の本質などを踏まえて学内関連部署が慎重に検討を行っています。支援の実施までには時間が必要ですので、障がいや病気により何らかの困難が想定される場合は早めにご相談ください。(現在、本学では対面授業を原則としており、遠隔授業(講義動画視聴による出席扱い)は配慮として認めておりませんので、あらかじめご承知おきください。)

◆保健管理センターの利用(小松島・福室)

保健管理センターは学生、教職員の心身の健康の維持・向上を支援しています。

急な体調不良やケガ、持病の管理についての相談や、なんとなく気分が優れないなど学生生活で不安なことがありましたら気軽にご相談ください。学医、臨床心理士(公認心理師)、看護師が相談を受けます。また、一部相談は予約制となっております。

事前に来室またはお電話でご予約をお願いします。安心して

相談ができるように配慮し、秘密は厳守します。

小松島キャンパス 直通電話 022-727-0054

体調不良やケガなどの急病 看護師による相談	平日 月曜～金曜 8:30～17:00(随時)
臨床心理士(公認心理師)による相談	平日 月曜～金曜 8:30～17:00(予約制)
学医による相談	平日 月曜～金曜 8:30～17:00(予約制)

福室キャンパス 直通電話 022-290-8865

体調不良やケガなどの急病	平日 月曜～金曜 8:30～17:15(随時)
精神科医師による相談	平日(予約制) 【申し込み方法】 1階学生相談室前に設置された申し込み用紙に記入し、相談ポストへ投函してください
学医による健康相談	平日(予約制)

◆学生相談室の対応

小松島・福室の両キャンパスでは毎週月曜日に「学生相談室」を開室しています。医学部、薬学部、教養教育センターの教員が相談員となり、勉強や友人、将来のことなど様々な悩みについて一緒に解決方法を考えます。また、もう少し専門的な助言等が必要な場合には保健管理センターやその他の部署などを紹介します。大学生活では様々なことを経験し成長していきますが、慣れない生活や勉強に不安になったり、つらい思いをすることがあるかもしれません。もし、何か相談したいことがあれば、気軽に学生相談室を利用してください。

なお、相談を希望する場合は、事前に予約が必要です。予約方法や相談担当者については、本学ホームページ掲載の「学生相談室だより」をご覧ください。

◆特別奨学金について(薬学部対象)

平成24年度より、学業成績の向上及び学業を奨励することを目的に特別奨学金制度を設け、本学の入学試験において特に優秀な成績により入学した者及び在学中で特に優秀な学業

◆新入生オリエンテーション

令和5年度の新入生オリエンテーションは、4月4日(火)より学部ごとに実施しました。オリエンテーションでは教務・学生生活関連の説明や組担任との顔合わせ、大学公式メールの操作確認等を行いました。また、初日にはピアサポーター(在学生)によるキャンパスツアーと相談コーナーを実施し、多くの新入生が参加しました。先輩との交流を通して新しい環境への不安が軽減されたとの感想が寄せられ、有意義な機会となりました。

◆令和4年度学部卒業証書・学位記並びに大学院学位記授与式

令和4年度学部卒業証書・学位記並びに大学院学位記授与式を令和5年3月8日(水)10時から本山製作所青葉アリーナ(青葉体育館)で挙行いたしました。

この度の卒業式では4年ぶりに保護者にもご出席頂きました。

学部卒業生は医学科92名、薬学科252名、生命薬科学科11名、大学院薬学研究科修了生は7名、あわせて362名の新たな門出を祝いました。

高柳元明理事長・学長は、学長告辞・理事長祝辞の中で「医療の現場では、医師や薬剤師を始め、医療に関わる全ての人々が力を合わせてこそ、患者さんにとって真のよりよい医療が実現します。東日本大震災から12年という歳月が流れても、復興はまだ道半ばです。東北地方の本当の復興には、これからも長い年月が必要であり、皆さんのような若い人々の、明るく人を思いやる前向きな力が、今、社会の人々から、強く必要とされています。」と述べられました。

続いて、ご来賓を代表し、サーミー・ガッサーブ・アッザマーナーン駐日クウェート国特命全権大使、村井嘉浩宮城県知事、柴田信之同窓会副会長から激励のご祝辞を賜りました。

教職員一同、卒業生・修了生の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。



令和4年度学部卒業証書・学位記並びに大学院学位記授与式の様子

成績を修めた者に対し奨学金を給付しています。

特別奨学金の採用人数及び給付額は、次のとおりです。

○新入生

薬学科……………学校推薦型選抜(公募制)6名、一般選抜(前期)12名、給付金額40万円

生命薬科学科…一般選抜(前期)2名、給付金額35万円

○在学生

薬学科……………各学年18名、給付月額2万円(年額24万円)

生命薬科学科…各学年2名、給付月額2万円(年額24万円)

令和5年度においては、5月に特別奨学金採用候補者116名を決定。5月31日(水)に採用候補者決定通知書を送付し、給付希望を確認した後、6月26日(月)に採用決定者へ特別奨学金採用証の交付が行われました。

◆令和4年度奨学金受給状況

※対象外 令和5年2月27日現在

奨学金名	大学(医学部)							大学(薬学部)							大学院							合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	MC1年	MC2年	DC1年	DC2年	DC3年	DC4年	計	
日本学生支援機構 第一種	8	9	13	14	16	19	79	72	58	61	61	59	48	359	2	3	0	1	0	0	6	444
日本学生支援機構 第二種	13	17	23	21	19	31	124	106	111	115	96	65	86	579	0	0	0	0	0	0	0	703
日本学生支援機構 給付奨学金	2	1	3	1	4	11	22	28	28	27	22	21	12	138	0	0	0	0	0	0	0	160
東北医科薬科大学特別奨学金	0	0	0	0	0	0	0	19	20	20	20	18	18	115	0	0	0	0	0	0	0	115
高柳奨学金	0	0	0	0	0	0	0	9	10	6	9	10	14	58	0	0	0	0	0	0	0	58
修学資金A方式	36	34	35	35	35	34	209	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	209
修学資金B方式	20	21	20	19	18	20	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	118
沖縄県国際交流・人材育成財団	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
亀井記念財団奨学金	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3	3	3	10	0	0	0	0	0	0	0	11
きらやか銀行教育福祉振興基金	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
交通遺児育英会奨学金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
あしなが育英会奨学金	0	0	1	0	1	0	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
八戸市奨学金	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
涌谷町奨学金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
いわての学び希望基金奨学金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
河内奨学金	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	2	7	0	0	0	0	0	0	0	7
川野小児医学奨学金	0	0	0	1	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
東日本大震災みやぎこども育英基金奨学金	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5
ひかり薬局奨学金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	0	0	0	0	0	0	0	4
毎日希望奨学金	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	4
杜の邦育英会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	80	82	95	93	93	119	562	238	229	231	217	185	186	1,286	2	3	0	1	0	0	6	1,854
併用者	10	15	19	24	20	34	122	59	49	63	57	47	45	320	0	0	0	0	0	0	0	442
実質奨学生数	66	63	69	61	63	64	386	164	166	156	147	131	130	894	2	3	0	1	0	0	6	1,286
在籍学生数	107	98	101	101	98	98	603	363	343	324	306	300	292	1,928	5	4	2	1	0	3	15	2,546
奨学生の割合	62%	64%	68%	60%	64%	65%	64%	45%	48%	48%	48%	44%	45%	46%	40%	75%	0%	100%	0%	0%	40%	51%

◆新医学部長挨拶



医学部長
小澤 浩司

私は医学部が設立された平成28年に整形外科教授として赴任し医学部教務委員会委員を務めました。令和4年度に教務委員長を担当し、本年4月より医学部長を拝命いたしました。教職員、関係者の皆様には、医学部に対しこれまで多大なご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。本年2月に行われた第117回医師国家試験における本学の合格率は、98.9%（95名中94名合格、既卒者含む）と高いものでした。2期生の臨床初期研修病院マッチングの状況をみると67%が東北地方の病院に赴任し、卒業生の東北地方への定着が進んでおります。本学の医学生が地域定着を図る取り組みは各方面から高く評価されています。今年の課題として、修学資金制度の変更への対応、医学教育分野別評価の受審があります。また医学部設立以来変更していなかった教育プログラムを、医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に合わせて、より良い教育プログラムになるように見直す作業に取り組んでおります。これらの改革を通じて、東北地方の地域医療、災害医療を担う医師を育成するという本医学部の使命を達成していきたいと思っております。引き続き皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。

◆授業の実施状況

新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月から、政府方針により「季節性インフルエンザ」と同じ5類感染症に位置付けられました。医学部では、日常の基本的な感染対策を怠りなく継続しながら、前期においては1年生は小松島キャンパス、2～4年生は福島キャンパスを中心に対面で通常の授業を実施しています。5年生は附属病院や関連教育病院で「診療科臨床実習」を行い、6年生は「地域総合診療実習」「地域包括医療実習」をネットワーク病院等の学外施設で行っています。

医学部医学科の前期カリキュラムにおいて、1年次は、医師となる前に人としての素養である知的好奇心・行動力・倫理観を培うとともに、「地域」の生活文化を理解し、医療現場や患者さん

に接する第一歩を踏み出します。2年次では、前年度に引き続き学ぶ基礎医学における知識を深め、解剖学実習では人体の構造と機能を理解します。また、地域医療の体験学習などで、地域医療の現状と課題を知ります。3年次と4年次においては、講義形式の臨床科目を中心に、5年次と6年次は、診療チームの一員として実際の患者さんを相手に診療業務を分担しながら学修しています。

今後も学校生活での安全を最優先に、学生一人ひとりの学びの歩みを止めることがないよう、教職員一丸となって日々の学生支援を行ってまいります。

◆第117回医師国家試験結果

2月4日（土）～2月5日（日）に第117回医師国家試験が行われました。本学からは新卒者92名が受験し、合格率は98.9%（92名中91名合格）と昨年度の結果を上回るとともに、2年連続で全国医学部新卒者平均（94.6%）を上回る結果となりました。

今後は「東北医科薬科大学」の卒業生として、臨床研修の2年間、東北地方を含むそれぞれの地域で医師としての第一歩を歩み始めていきます。

◆共用試験（CBT・OSCE）について

医学部の共用試験は、次の2つの部分から構成されます。

ひとつは、医師の資格を有していない医学生が診療参加型臨床実習で医行為を行うにあたり、それを許容できる能力や適性を有していることを評価するCBT、臨床実習前OSCEがあります。

4年次後期から開始となる「診療科臨床実習」、6年次前期の「地域総合診療実習」「地域包括医療実習」を履修するためには、CBT及び臨床実習前OSCEの両方に合格しなければなりません。

もうひとつは、医学生が診療参加型臨床実習により、医学部の卒業を許容できるレベルの臨床能力を習得していることを評価する臨床実習後OSCEがあります。

令和5年度は下記のとおり実施される予定です。

CBT	本試験	8月21日（月）
	追再試験	9月13日（水）
臨床実習前OSCE	本試験	8月26日（土）、27日（日）
	追再試験	9月17日（日）
臨床実習後OSCE	本試験	11月3日（金・祝）
	追再試験	11月23日（木・祝）



医学部の授業の様子

◆白菊会について

6月7日(水)に、宮城県内における献体篤志家団体である東北大学白菊会の第46回総会が、仙台国際センターにて開催されました。

本年度総会には会員約290名が出席し、成願者への黙祷が捧げられました。本学からは小澤浩司医学部長が来賓として出席し、来賓挨拶では医学教育の場における篤志献体の意義深さを伝えるとともに、会員への謝意を述べました。

また、2年次と5年次で、それぞれ優秀な成績を修めた学生を表彰する「鹿野記念奨学奨励賞(鹿野賞)」と「笠原賞」の授賞式が行われ、本学からは医学部3年の要未果さんと佐々木拓也さんが鹿野賞を、医学部6年の吉田智哉さんが笠原賞を受賞しました。

会の後半では、(公財)東北大学アイバンクの横倉俊二常務理事と古堅智子氏より、「百歳でも提供可能な驚異の臓器『角膜』」と題した記念講演が行われました。



要未果さんと佐々木拓也さん 吉田智哉さん

◆進級基準

医学部の進級は、下記の医学部履修規程第12条に基づきます。各学年において進級条件を満たさない場合は、原級となります。

なお、定期試験及び追再試験不合格の場合は、進級判定試験(2月下旬～3月中旬)を行うことがあります。判定試験対象者には、学生本人に知らせるとともに、文書により保証人に通知します。

(医学部履修規程より抜粋)

第12条 医学部における進級の条件は、次のとおりとする。

(1) 1年次から2年次への進級

ア 履修する必修の全ての授業科目の単位を修得すること。

イ 履修する選択必修の授業科目のうち、基礎教養の外国語の科目について、同一語学の科目を2単位以上修得すること。

ウ 履修する選択必修の授業科目のうち、基礎教養の外国語以外の科目について、4単位以上修得すること。

(2) 2年次から3年次への進級

ア 履修する全ての授業科目の単位を修得すること。

(3) 3年次から4年次への進級

ア 履修する全ての授業科目の単位を修得すること。

(4) 4年次から5年次への進級

ア 履修する必修の授業科目のうち、臨床実習以外の全ての科目の単位を修得すること。

イ 履修する選択必修の授業科目のうち、1単位以上修得すること。

ウ 履修する臨床実習について、4年次の1月末までの学修成果の評価が、臨床実習成績判定委員会において合格の判定を受けていること。

(5) 5年次から6年次への進級

ア 履修する臨床実習について、5年次の1月末までの学修成果の評価が、臨床実習成績判定委員会において合格の判定を受けていること。

2 前項各号に定められた全ての条件を満たさない場合は、原級に留める。

3 原級に留まった者の既修得単位は、認める。

4 進級は、教授会の意見を聴いて、学長が認定する。

◆医学部後期行事予定

8月	
8月21日(月)	6年次後期授業開始
8月28日(月)	1年次・2年次後期授業開始
8月28日(月)～9月1日(金)	1年次後期選択必修科目履修登録期間
9月	
9月25日(月)	4年次後期授業開始
9月26日(火)	3年次後期授業開始
9月29日(金)	4年次白衣授与式
9月30日(土)	在学生保護者教育懇談会(仙台会場)
10月	
10月8日(日)・9日(月・祝)	大学祭
10月20日(金)	6年次統括試験(1回目)
11月	
11月3日(金・祝)	6年次共用試験Post-CC OSCE本試験
11月30日(木)	第2期授業料等納付金納入期限
12月	
12月8日(金)	2年次東北大学・東北医科薬科大学合同慰霊祭・遺骨返還式
12月15日(金)	6年次統括試験(2回目)
12月25日(月)～1月3日(水)	4年次・5年次・6年次冬季休業
12月25日(月)～1月16日(火)	1年次後期定期試験期間
12月26日(火)～1月2日(火)	3年次冬季休業
12月27日(水)～1月9日(火)	1年次・2年次冬季休業
1月	
1月15日(月)～22日(月)	3年次後期追再試験期間
1月15日(月)	6年次卒業判定
2月	
2月上旬(予定)	医師国家試験
2月5日(月)～21日(水)	2年次後期追再試験期間
2月6日(火)～15日(木)	1年次後期追再試験期間
2月26日(月)～3月6日(水)	1年次・2年次・3年次進級判定試験実施期間
3月	
3月8日(金)	卒業証書・学位記授与式(東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館))
3月14日(木)	進級判定

※定期試験・追再試験は、設定された試験期間または適宜実施されます。

◆臨床研修について

医学部は開設以来「地域医療の多様なニーズに対応できる幅広い診療能力を持った医師を育成し、東北地方の地域医療の未来を支えること」を使命に掲げ、令和5年3月には第2期卒業生を輩出いたしました。現在、第1期卒業生の64%、第2期卒業生の67%が東北地方で臨床研修を行っております。さらに臨床研修後は、東北の地域医療に貢献しようとする志をもった修学資金医師も東北地方で勤務することとなるため、より多くの卒業生が東北地方で活躍してくれることと期待しております。今後も卒業生が医師としての職責を継続して果たしていけるよう、関係機関と協力しながら支援してまいります。

◆医学部卒業生交流支援センター

「医学部卒業生交流支援センター」は、大学と卒業生が一体となり医療に携わる皆さんを支えることを目的として設置されました。医学部が平成28年に設立され、毎年多くの卒業生が輩出されていきます。新設医学部の卒業生ですので、同窓生の少なさや不慣れな地域での勤務に困ることも出てくるかと思えます。

卒業後に誰かに相談したい悩み等がでてきた場合は、まずは当センターに相談してみてください。卒業生が医師としての職責を継続して果たしていけるよう、様々な相談に対応します。

当センターは、卒業生の皆さんと大学との間でパートナーシップに基づく相互支援の関係を築くことで、卒業後も医師としての成長をサポートしていく組織を目指します。

例えば、こんなとき

- ・キャリア形成についてアドバイスがほしい。
- ・臨床研修病院や専門領域の選択に迷う…
- ・勤務した地域にうまく馴染めない…
- ・仕事と育児の両立で悩んでいる…

今、抱えている不安、まずは相談してみませんか？

受付窓口：医学部事務部キャリア支援課

e-mail : career-igakubu@tohoku-mpu.ac.jp

まずはお気軽にメールでお問い合わせください。

※医学部在学生からの相談も受け付けています。

不安も、悩みも、人それぞれ。 そんな「それぞれ」に寄り添う、センターです。

当センターは、様々な形で在学・卒業生の支援を行っています。

相談 進路の不安や就職後の悩みを相談 在学中だけでなく、卒業後も継続して相談できます。相談内容に応じて専門部署と連携したり、遠方の卒業生にはオンライン面談も可能です。	交流 在学生・卒業生・教職員の交流の場づくり 卒業生と在学生が交流できる座談会や卒業後も参加できる勉強会を定期開催しています。
SNS 大学関係者に限定された安全性の高いSNS 大学独自のSNSを活用し、卒業生・在学生・医師同士の情報交換や発信ができるように、強力な卒業生ネットワークを構築していきます。	現地訪問 各地で活躍している卒業生を訪問 在学中に授業や実習等で担当した教員が勤務地を訪問し、現地調査をしながら卒業生の激励や支援を行います。



悩みがあったり、困ったときは卒業後も気軽に相談してね！

Career Guidance
1年次
医師になるまでのロードマップの説明

Career Guidance
2～3年次
医師の進路臨床研修病院の選び方

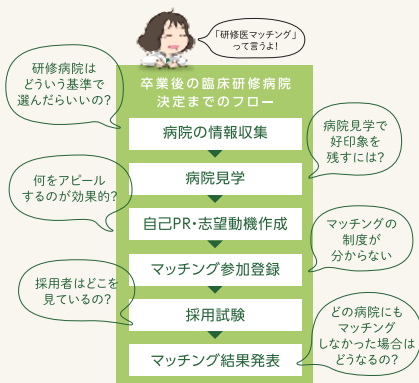
人生に平穏な道などないわ



Career Guidance
4～5年次
病院見学のマナー対策
キャリア形成に関する情報提供

Career Guidance
6年次
マッチング説明会
採用試験対策

ここがゴールではない！
ここから医師としての本当のスタートだ！

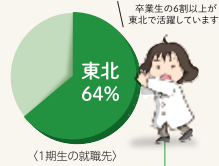


新入生さん！
大志を抱け！

医師への道は
こちらから

大学と卒業生が互いに支えあうことが、
地域医療への貢献につながります。

当センターは在学生・卒業生への支援を通して、
医師の定着や地域医療の活性化に貢献して
いきます。



◆薬学部長挨拶



薬学部長
吉村 祐一

新年度を迎え、大学ではこれまで実施してきた新型コロナウイルス感染症に関連した制限を緩和し、ほぼコロナ以前の状態に戻っております。小松島キャンパスでは、マスクの着用は各自の判断となりましたが、まだマスク姿の学生がほとんどです。これも時間の経過とともに徐々に変わっていくのではないのでしょうか。さて、薬学科では、令和6年度から実施することになる新たなカリキュラムの策定が進んでおります。その元となります、薬学教育モデル・コア・カリキュラムが文部科学省の検討会から示されておりますが、その冒頭に、「変化し続ける未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」を目指して医学・歯学・薬学教育の3領域で統一的に取りまとめたことが説明されております。薬剤師の現場では、DXの活用が一層進み、個々の患者さんの状況に適した責任ある薬物療法の実践、介護・福祉において地域の健康増進に主体的に寄与することなどが求められております。これからの薬剤師に必要な素養をしっかりと身に付けられるよう、カリキュラムに反映させるとともに、現行の教育の中でも必要なものを取り入れていくつもりです。また、今後、医学部との教育連携も一層進むことになり、医学生と薬学学生がともに学ぶ機会もさらに増えるものと期待しております。

■授業の実施状況

新型コロナウイルス感染症が5類へと移行することに伴い、令和5年度の薬学部の前期授業は、4年ぶりに全面対面形式でスタートし、キャンパス内に以前と同じような活気が戻ってきました。コロナ禍で活用した遠隔ツール（講義動画）を試験のための復習で導入し、学生がより効率的にかつ効果的に学べる学習環境を提供しています。



薬学部の授業の様子

◆第108回薬剤師国家試験結果

第108回薬剤師国家試験が2月18日（土）、19日（日）の両日全国9地区を会場として実施され、3月22日（水）に厚生労働省より結果が発表されました。本学の新卒は252名が受験し211名が合格、合格率は83.73%でした。

第108回薬剤師国家試験結果

	新卒			6年制既卒			その他(旧4年制卒)			総計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本学	252	211	83.73%	145	79	54.48%	1	0	0.00%	398	290	72.86%
私立大学	7,827	6,600	84.32%	5,044	2,212	43.85%	124	23	18.55%	12,995	8,835	67.99%
全大学(国公立)	8,548	7,254	84.86%	5,146	2,267	44.05%	221	81	36.65%	13,915	9,602	69.00%

今年度も国家試験対策として次のような補講や演習を行っていく予定です。

- ①4月6日（木）～6月30日（金）（41日間）
基礎学力演習（対面講義）
- ②8月2日（水）～8月7日（月）（6日間）
夏期講習会（希望者）
- ③10月16日（月）～11月17日（金）（25日間）
国試対策特別補講Ⅰ
- ④2月1日（木）～2月2日（金）、2月5日（月）～8日（木）（6日間）
国試対策特別補講Ⅱ（希望者）
- ⑤4月12日（水）、8月17日（木）・18日（金）、10月2日（月）・3日（火）
11月20日（月）・21日（火）、1月22日（月）・23日（火）
模擬試験（第1回～第5回）

模擬試験結果については、受験生本人だけではなく保証人様宛にもお送りいたします。国家試験受験に際しての参考にしていただければと思います。

◆実務実習について

薬学科の学生は5年次に薬局・病院で11週間の実務実習を行っています。これは参加型の実習であり、患者さんと直接接することにより、大学では学べない実際の薬剤師業務を体験しています。これまでは新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって実習内容の制限もありましたが、COVID-19が落ち着いてきていることから、通常の実務実習に戻つつありますが、感染の危険性が無くなったわけではありません。感染予防を行いながら、薬局・病院のご協力を得て、薬剤師として日常的に対応する代表的な8疾患を中心に、薬局窓口、病棟や在宅での薬剤師としての活動に取り組んでおり、終了後には実務実習成果報告会で実習内容の報告会を行っています。

◆ベストティーチャー賞・グッドティーチャー賞受賞者決定

薬学部では教育の質の更なる向上を目指し、学生の授業アンケートで高評価を受けた教員へ、ベストティーチャー賞・グッドティーチャー賞を授与する制度を設けました。

令和4年度の表彰式及び受賞報告会は、令和5年5月15日（月）に行われました。



ベストティーチャー賞・グッドティーチャー賞受賞者

ベストティーチャー賞

薬学科	総合科目	佐藤 厚子
	基礎薬学科目	渡邊 一弘
	医療薬学・専門選択科目	原 明義
生命薬科学科	総合科目	諸根 美恵子
	基礎薬学科目	田中 大
	医療薬学・専門選択科目	八百板 富紀枝

グッドティーチャー賞

薬学科	総合科目	名取 良浩
	基礎薬学科目	町田 浩一
	医療薬学・専門選択科目	薄井 健介
生命薬科学科	総合科目	木戸 紗織
	基礎薬学科目	八百板 康範
	医療薬学・専門選択科目	溝口 広一

※敬称略

◆進級基準

薬学部の進級基準は下記のとおりです。なお、各学年の進級基準は入学年度によって異なりますので、ご注意ください。

「令和2年度以降の入学生」

薬学科1～4年次、生命薬科学科1～3年次

○当年次における実習の科目を除く必修科目の未修得単位が4単位以内であること。

ただし、薬学科2～4年次、生命薬科学科2、3年次においては、前年次における欠単位は、当年次欠単位に含め4単位以内であること。

○当年次における実習の科目をすべて修得すること。

2.薬学科4年次、生命薬科学科3年次

○上記1の条件の他、2年次までの全ての必修科目及び総合科目中の卒業要件である選択必修科目を修得すること。

また、薬学科4年次においては、薬学共用試験に合格すること。

●GPA進級基準値

必修科目の進級条件(必修科目の未修得単位が4単位以内)を満たしていない場合でも、**未修得単位が6単位以内であり、かつ年間GPAの数値が基準値を上回っていれば進級とします。**

基準値は、当該学年履修科目全体の**年間GPA1.500以上**とします。

GPA制度について(学生便覧より一部抜粋)

本学の薬学部では、令和2年度入学生よりGPA(Grade Point Average)制度の導入を行いました。

GPA制度とは、各授業科目の成績を5段階のグレード「S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、F(不可)」で評価し、各成績評価段階(評点)に4～0のGPを付与して、1単位あたりの評定平均値(GPA)を算出する制度です。

GPAは修得単位数という「量」だけでなく、成績評価に基づく「質」を表しています。

GPAの導入により、学期毎の学修成果と学修の状況がより明確になり、学修意欲の向上、無理な履修計画や安易な履修登録の自己規制につながることを目的としています。

●成績評価(区分、グレード、評点、GP)

区分	グレード	評点	GP
合格	S(秀)	100点～91点	4
	A(優)	90点～81点	3
	B(良)	80点～71点	2
	C(可)	70点～60点	1
不合格	F(不可)	59点～0点	0
	欠席	—	
	資格無	—	

「令和元年度以前の入学生」

1.薬学科1～5年次、生命薬科学科1～3年次

○当年次における実習の科目を除く必修科目の未修得単位が4単位以内であること。

ただし、薬学科2～5年次、生命薬科学科2、3年次においては、前年次(薬学科4年次においては、3年次配当科目のみ)における欠単位は、当年次欠単位に含め4単位以内であること。

○当年次における実習の科目をすべて修得すること。

2.薬学科4年次、生命薬科学科3年次

○上記1の条件の他、2年次までの全ての必修科目及び総合科目中の卒業要件である選択必修科目を修得すること。

また、薬学科4年次においては、薬学共用試験に合格すること。

◆薬学部後期行事予定

8月	
8月21日(月)～11月5日(日) 薬学科5年次実務実習(第Ⅲ期)	
9月	
9月5日(火)・6日(水)	薬学科4年次CBT体験受験
9月8日(金)	後期授業開始
9月25日(月)	後期オリエンテーション
9月30日(土)	在学生保護者教育懇談会(仙台)
10月	
10月2日(月)・3日(火)	薬学科6年次薬剤師国家試験対策第3回模擬試験
10月4日(水)～	薬学科6年次薬剤師国家試験対策模擬試験弱点補講(オンデマンド配信)
10月8日(日)・9日(月・祝)	大学祭
10月14日(土)	在学生保護者教育懇談会(山形・郡山)
10月16日(月)～11月17日(金)	薬学科6年次国試対策特別補講Ⅰ
11月	
11月2日(木)	薬学科4年次薬学実力試験(CBT対策)
11月4日(土)・11日(土)	薬学科1・2年次、生命薬科学科1・2年次中間試験
11月20日(月)～2月11日(日)	薬学科5年次実務実習(第Ⅳ期)
11月20日(月)・21日(火)	薬学科6年次薬剤師国家試験対策第4回模擬試験
11月22日(水)～	薬学科6年次薬剤師国家試験対策模擬試験弱点補講(オンデマンド配信)
11月30日(木)	第2期授業料等納付金納入期限
12月	
12月2日(土)・3日(日)	薬学科4年次薬学共用試験(OSCE)
12月22日(金)	後期授業終了
1月	
1月5日(金)・6日(土)	薬学科4年次薬学共用試験(CBT)
1月9日(火)～18日(木)	後期定期試験 (薬学科4年次1月9日(火)～17日(水))
1月25日(木)	後期成績Web公開(薬学科4年次のみ)
1月26日(金)	後期成績Web公開(薬学科4年次以外)
2月	
2月6日(火)～14日(水)	後期追・再試験 (薬学科4年次2月2日(金)～9日(金))
2月13日(火)・15日(木)	実務実習事前講習会(薬学科4年次)
2月14日(水)	薬学科4年次薬学共用試験(OSCE追・再試験)
2月17日(土)・18日(日)	第109回薬剤師国家試験
2月22日(木)	薬学科4年次薬学共用試験(CBT追・再試験)
3月	
3月8日(金)	卒業証書・学位記授与式(東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館))
3月12日(火)	進級判定

※感染症等の状況により、予定が変更となる場合があります

◆令和4年度就職(進学)状況(令和5年6月1日現在)

薬学科96.0% 生命薬科学科100% 進路決定

薬剤師国家試験の合格発表を受け、確定した就職(進学)は以下の通りです。

○薬学科

アステラス製薬(株)、大塚製薬(株)、第一三共(株)、日新製薬(株)、日本メジフィジックス(株)、Meiji Seika ファルマ(株)、青森県職員、宮城県職員、山形県職員、八戸市職員、(独)国立病院機構 北海道東北グループ、(独)地域医療機能推進機構(UCHO) 北海道東北地区、東北大学病院、山形大学医学部附属病院、市立釧路総合病院、岩手県医療局、石巻赤十字病院、栗原市立栗原中央病院、仙台赤十字病院、南三陸病院、宮城県立こども病院、市立秋田総合病院、JA福島厚生連、(公大) 福島県立医科大学附属病院、福島赤十字病院、越谷市立病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、岩手医科大学医学部附属病院、(医)有恒会こどもホスピタル、(社医)将道会 総合南東北病院、(医)仙台医療福祉会 仙台大富沢病院、(公財)仙台市医療センター 仙台オープン病院、仙台循環器病センター、東北医科薬科大学病院、(医)徳洲会 仙台徳洲会病院、(医)医徳会 真壁病院、(公財)宮城厚生協会、(医)興生会横手興生病院、順天堂大学医学部附属静岡病院、I&H(株)(阪神調剤グループ)、(株)アイセイ薬局、アイングループ(株)アクア マリーン調剤薬局、アポクリート(株)、アルメリア(株)、いまいメディカルグループ、(株)池田薬局、(株)オオノ、カメイ(株)、クオール(株)、(株)くすりのマルト、気仙中央薬局、(株)コスモファーマ、(株)サンライフ コミュニティ、シップヘルスケアファーマシー東日本(株)、総合メディカル(株)、中央薬品(株)、椿メディカル(株)、(株)つるみ薬局、(株)テック、徳永薬局(株)、日本調剤(株)、(株)ハローコーポレーション、(株)ファーマックス、(株)ファルマ、(一社)ファルマネット山形、(一社)福島ファルマプラン、(株)三輪商事 ミツワ薬局、(一社)みやぎ保健企画 つばさ薬局、(株)メディカルコスモ リフレ薬局、(株)メディカルシステムネットワーク、(株)メディファル、(株)ヤスイ ヤスイ調剤薬局、(株)ヤマザワ薬品、ラッキーバッグ(株)、(株)ワークイン つくし薬局、イオングループ ウエルシア薬局(株)、(株)カワチ薬品、(株)クスリのオオキ、(株)クリエイトエス・ディー、サンドラッググループ、(株)スギ薬局、(株)ツルハ、紅屋商事(株)、(株)龍生堂本店、東北医科薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻、東北大学大学院医学系研究科医科学専攻

○生命薬科学科

協和キリン(株)、日本全薬工業(株)、浜理PFST(株)、(株)アイロム、(株)ステップ、東京工業大学生命理工学院、東北医科薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻、東北大学大学院生命科学系研究科

○大学院薬学研究科

第一三共バイオテック(株)、日本赤十字社東北ブロック血液センター、東北大学病院、東北医科薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻、東北大学(科目等履修生)

◆令和4年度合同就職説明会開催

令和4年度合同就職説明会は、4年ぶりとなる対面実施と動画配信を併用し、250事業所(公務員、製薬会社、病院、薬局、ドラッグストアなど)のご協力を得て開催いたしました。一部対面でも実施しましたが、コロナ前に比べ規模を縮小するなど感染対策をした上で、3月6日(月)～7日(火)の2日間、病院を中心に一部の公務員、製薬会社、地方の薬局など138事業所に参加いただきました。参加学生は、薬学科5年生、生命薬科学科3年生など、3月から本格的に就職活動がスタートした学生に限定して行いましたが、説明会当日は延べ333名の参加がありました。参加した学生は各ブースを回り、事業所の採用担当者や本学卒業生から採用情報や事業所の特色などを直接聞くなど、久しぶりに就職活動生の熱気を感じられる説明会となりました。また、昨年に引き続き、3月から2ヶ月間、148事業所の動画配信を行いました。多くの学生が動画からも情報を得ることが出来、学生にとって有益な機会になったのではないかと思います。薬学部キャリア支援センター運営委員会では、令和5年度もキャリア・

就職支援行事を各種予定しており、懇切丁寧に学生のサポートをしてまいります。



令和4年度合同就職説明会の様子



◆令和5年度薬学部キャリア・就職支援行事

薬学科	生命薬科学科	月	行事名
4～5 年次	2年次	4月	キャリアガイダンス
		9月	キャリア支援講座Ⅰ(全15回)
	3年次	4月	就職ガイダンス・インターンシップ説明会
		5月	職務適性テスト 病院薬剤師に関する説明会
		6月	職務適性テストフォローアップ講座 キャリア支援講座Ⅱ(全4回) 業界説明会(製薬・MR、CRO・SMO、 医薬品卸・MS) 業界説明会(化粧品・技術職、製薬・ 品質管理、検査・技術職)
		7月	業界説明会(公務員、 薬局 、ドラッグストア)
		8月	インターンシップ事前講習会 インターンシップ
		9月	自己分析・履歴書・エントリーシート 書き方講座 就職マナー講座Ⅰ(マナー全般) 就職マナー講座Ⅱ(着こなし講座)
		10月	履歴書・エントリーシートフォローアップ講座 学内公務員講座開講(～翌年7月):有料 就職マナー講座Ⅱ(就活メイク講座) 就職活動体験発表会 面接試験対策講習会① 適性検査R-CAPweb受検
		11月	業界・仕事研究セミナー SPI3解説講座 インターンシップ事後講習会 就職活動直前講座(自己分析) 製薬会社内定者との懇談会 面接試験対策講習会② キャリア支援講座講演会
		12月	R-CAP解説講義 進路調査書web登録
		1月	進路面談 就職ガイダンス～就活直前編～
		2月	就職ガイダンス、インターンシップ説明会 就職ガイダンス～就活直前編～ 就職活動直前講座(ES・面接) 進路調査書web登録
		3月	合同就職説明会
	4年次	7月	就職希望者に対する個人面談

赤字:薬学科対象 青字:生命薬科学科対象

教養教育センターより

◆教養教育センター長挨拶



教養教育センター長
家 高 洋

教養教育センターは医学部と薬学部の教養教育を担っており、各専門分野（英語学、ドイツ語学、哲学、法学、心理学、社会学、体育学、数学、物理学等）の教科を担当しています。本年（令和5年）3月に体育学教室の佐々木克之教授が退官されました。佐々木教授のご専門はバレーボールであり、令和元年度に公益財団法人日本バレーボール協会から功労者として表彰されました。長年に渡り本学の体育学教育等にご尽力いただきました佐々木教授にこの場をお借りしまして御礼を申し上げます。

ところで、本年4月から社会学教室に相澤出准教授が赴任しました。相澤准教授は東北大学大学院後期課程修了後、宮城県名取市の医療法人社団「爽秋会」岡部医院の専任の研究員としての勤務、「東北地方を対象とした地域研究」と「地域医療や在宅での医療と介護に関する研究」を統合する研究を行ってきました。その成果は、論文「特別養護老人ホームと自宅での看取り、そしてホームカミング：地域への問題提起としての看取りをめぐるケア」等に示されています。なお、本学での相澤准教授の授業は「現代社会と人間」（医学部1年）、「医療社会学」（薬学部2年）等を担当されています。相澤准教授とともに、本学の教養教育をさらに発展させていきたいと考えています。

◆科目紹介(ドイツ語学教室)

本教室では、両学部の「ドイツ語」（前後期）を担当しています。初歩的なドイツ語の運用能力の習得を柱としつつ、私たちが何気なく使っている母語や英語にも目を向けさせることで、ドイツ語の学習が日本語や英語のブラッシュアップにつながるよう意識しています。また、今日の外国語教育では「仲介」という技能が注目されていることから、本教室ではグループワークを重視しています。この中で学生たちは互いに教えあったり質問しあったり、ドイツ語と日本語を交えながら主体的に学習を進めていきます。このような協働学習が、他者理解やコミュニケーション能力といった医療現場で求められる基礎的な資質の向上につながるよう心がけています。



図書館より

◆図書寄贈御礼(二松会)

毎年、二松会から本学図書館に図書購入費の御支援をいただいております。昨年12月以降、次の図書を購入了したのでご報告いたします。二松会・保護者の皆様へ心より御礼申し上げます。

【令和4年12月～令和5年3月末までの購入分】

芥川賞受賞作、直木賞受賞作、本屋大賞受賞作など。

計39種 金額208,447円
(年間 合計80種 金額500,000円)



◆令和4年度図書館利用状況・蔵書統計報告

令和5年3月31日現在

	本館	医学分館
開館日数	278日	324日
利用対象者数	4,411人	
入館者数	36,611人	27,260人
貸出冊数	2,276冊	6,867冊
貸出人数	1,246人	4,014人
相互協力(申込)	60件	149件
相互協力(受付)	44件	41件

	年間受入数	蔵書数
図書	2,203冊	123,154冊
電子書籍	1,829冊	15,086冊
雑誌	199種	1,195種
視聴覚	2点	586点

新型コロナウイルス感染症対策のため、閲覧席の利用を一部制限しておりましたが、令和5年5月8日から感染症法上の位置づけが5類感染症に移行されたことを受け、制限を解除いたしました。

新しい図書も増えておりますので、どうぞご利用ください。

大学院より

◆医学研究科について



医学研究科長
神田 輝

大学院医学研究科は令和5年4月に開設された新しい研究科です。本学医学部は、東北地域における医師不足・医師偏在の解消を使命として平成28年4月に開設され、令和5年3月の時点で、1期、2期生を社会に送り出しました。卒業生は初期研修を終えた後、多くが東北の地域医療現場へと赴きます。東日本大震災を経験した東北地方の医療現場には、超高齢化社会と人口減少という全国の地方医療現場が直面する状況がより切迫した状況で存在しています。「地域医療」というキーワードのもとで、学部教育と連携した大学院医学研究科を設立する目的は多岐にわたります。

第一に地域の医療ニーズを理解した上で、専門分野の先端的知識・技術を備えた高度専門職業人が求められています。本研究科・臨床医学領域では、先端的な研究を基盤とした新たな診断・治療法の開発に挑戦する人材を育てます。

第二に、医療提供体制の整備に貢献できる人材の必要性です。地域医療の課題解決は医師だけで成し遂げられるものではありません。社会地域医学領域がめざすのは、医師・看護師・薬剤師を含む医療スタッフ、保健・予防医学に携わる人々が協力して課題の解決にあたる地域社会の構築です。

第三に各種疾患の病態解明です。基礎医学領域では、6年制学

部や修士課程での研究や地域における診療活動から見出した独自の研究課題に挑戦し、得られた研究成果を世界に発信できる医学・生命科学研究者を育てます。本研究科は、医師に加え、薬剤師、看護師、臨床工学士など様々な背景を有する人々を受け入れ、それぞれの立場で問題解決に寄与できる人材を育成し、地域社会の持続的発展に対して貢献していきます。

◆薬学研究科令和4年度大学院学位記授与関係

令和5年2月13日(月)に博士学位論文、2月14日(火)に修士学位論文の最終試験(口頭による論文発表)があり、3名に博士(薬学)、4名に修士(薬科学)の学位記が授与されました。氏名及び論文題名は次のとおりです。

薬科学専攻博士課程前期課程(4名)

氏名	教室名	論文題名
熊野 征行	臨床分析化学	高活性ニトロキシラジカルを用いた電気化学センサーの開発
鈴木 麻莉恵	微生物学	HCV変異Core蛋白質の小胞体ストレス応答誘導機構とその制御法の創出
中里 ありす	分子認識学	悪性中皮腫細胞におけるABCトランスポーターへのcSBLの影響
守 政彦	薬物動態学	潰瘍性大腸炎時の小腸/バリア機能低下機構解明を目的とした新規評価系の構築

薬学専攻博士課程(3名)

氏名	教室名	論文題名
伊藤 亮太	臨床感染症学	ESBL産生株を含むEscherichia coliにおけるcefmetazole耐性獲得とその抑制に関する研究
佐藤 伸輔	病態生理学	精神的ストレスによる免疫寛容の抑制が惹起起こす好酸球・好中球気道炎症に関する研究
関根 僚也	微生物学	SARS-CoV-2 のリガ核タンパク質(RNP)を標的とした抗ウイルスオリゴRNA

入試センターより

◆令和5年度入学者選抜結果

医学部は一般選抜の一次試験を令和5年1月21日(土)に、二次試験(一次試験合格者のみ対象)を令和5年2月4日(土)、5日(日)に実施しました。また、大学入学共通テスト利用選抜の二次試験を令和5年3月2日(木)に実施しました。

薬学部は学校推薦型選抜(指定校制・公募制)を令和4年11月19日(土)に、一般選抜(前期)を令和5年1月21日(土)に、一般選抜(後期)を令和5年2月18日(土)に実施しました。また、大学入学共通テスト利用選抜は前・中・後期とそれぞれ大学入学共通テストの成績を利用し、合格発表を行いました。

令和5年度入学者選抜結果は表(1)(2)のとおりです。

医学部入学者選抜結果

表(1)

区分	内容	人数 ※()内は女子の内数					志願倍率	実質競争倍率
		募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		
医学部	一般	95	1,733(629)	1,679(619)	321(136)	93(41)	18.2倍	5.2倍
	共通テ	5	73(35)	73(35)	22(13)	7(4)	14.6倍	3.3倍
	計	100	1,806(664)	1,752(654)	343(149)	100(45)		

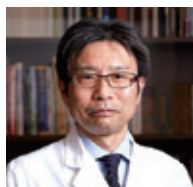
薬学部入学者選抜結果

表(2)

区分	内容	人数 ※()内は女子の内数					志願倍率	実質競争倍率
		募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		
薬学部	推薦(指定校)	50	44(30)	44(30)	44(30)	44(30)	0.9倍	
	推薦(公募)	75	113(78)	112(77)	82(55)	82(55)	1.5倍	1.4倍
	一般(前期)	120	278(164)	270(161)	237(140)	125(73)	2.3倍	1.1倍
	一般(後期)	32	66(31)	53(28)	42(21)	26(15)	2.1倍	1.3倍
	共通テ(前期)	15	182(106)	180(105)	132(76)	14(8)	12.1倍	1.4倍
	共通テ(中期)	5	22(10)	22(10)	21(9)	6(2)	4.4倍	1.0倍
	共通テ(後期)	3	15(9)	15(9)	11(8)	5(4)	5.0倍	1.4倍
	計	300	720(428)	696(420)	569(339)	302(187)		
区分	内容	人数 ※()内は女子の内数					志願倍率	実質競争倍率
		募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		
生命薬科学科	推薦(指定校)	5	4(3)	4(3)	4(3)	4(3)	0.8倍	
	推薦(公募)	5	6(4)	6(4)	6(4)	6(4)	1.2倍	1.0倍
	一般(前期)	13	46(31)	45(30)	37(25)	16(12)	3.5倍	1.2倍
	一般(後期)	4	14(11)	11(8)	9(7)	5(4)	3.5倍	1.2倍
	共通テ(前期)	3	42(26)	42(26)	31(19)	2(1)	14.0倍	1.4倍
	共通テ(中期)	若干名	5(1)	5(1)	4(1)	0(0)		1.3倍
	共通テ(後期)	若干名	4(2)	4(2)	2(1)	0(0)		2.0倍
	計	30	121(78)	117(74)	93(60)	33(24)		

本院より

◆統括病院長就任挨拶



統括病院長
佐藤 賢一

本年4月1日より統括病院長職を拝命いたしました。私は平成29年より消化器内科科長として福室本院での消化器内科診療に従事するとともに、平成30年に副病院長、令和4年より病院長として、病院運営に関わってまいりました。今年度から本学附属病院全体を統括する立場として尽力させていただきますのでよろしくお願いいたします。

東北医科薬科大学病院が誕生して7年が経過しました。この7年間で、本院、若林病院合わせて医師数も270名、看護師数も800名を超えるようになり、本院では新大学病院棟も増設されました。両病院合わせて727床となり、大学病院としての高度な医療の提供を行う土台が固まりつつあります。昨年4月には医学部一期生、本年4月には二期生、合わせて184名を医師として世に送り出すことができました。そのうち18名が臨床研修医として本学附属病院で働いております。6年前は数名しかいなかった研修医も順調に増え、臨床研修医、専攻医は総勢50名を超え、卒後教育施設としても充実してきたことが実感されます。

今後、本院と若林病院の連携をさらに強固にしていくとともに、地域医療の将来を担う医療者を育成していけるよう努力を続けていく所存です。

◆新型コロナウイルス感染症の5類移行による運用変更について

令和5年5月8日(月)付で、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症となりました。感染対策の実施については個人・事業者の判断が基本とされていますが、高齢の方等、重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、医療機関を受診する場合はマスクの着用が推奨されています。当院でも来院の方には引き続きマスクの着用をお願いしています。

当院では、以下の運用が変更となりました。

- ・来院時の問診票の廃止(病棟立ち入り者のみ記入)
- ・入院時のスクリーニング検査の廃止(有症状者は検査)
- ・消化器外科、肝胆膵外科、泌尿器科の病棟変更
(本館6A病棟・本館5B病棟 → 新館7N病棟)
- ・キッチンカーの柵の撤去(外から購入可) 等



キッチンカーも外からの購入が可能になりました

◆「マイナ受付」の運用開始について

令和5年1月16日(月)より、「マイナ受付」(オンライン資格確認)の運用を開始しました。

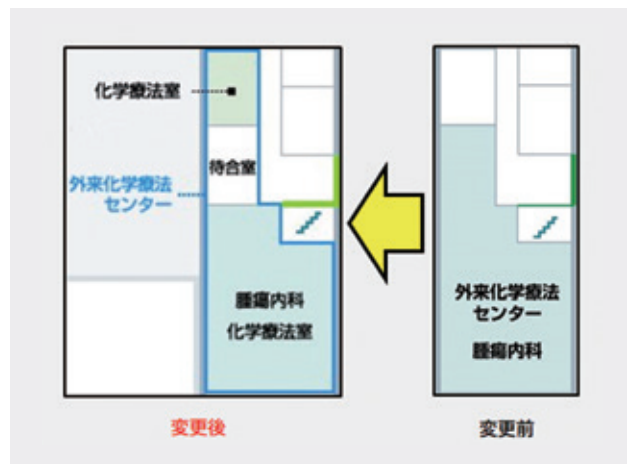
また、マイナ保険証(マイナバーカード)による診療情報取得に同意いただくことで、医師などの有資格者が患者さんの情報(他院での処方履歴、特定健診等)を確認できるようになりました。



「マイナ受付」ポスター

◆化学療法室の拡張と泌尿器科診察室の増設について

令和4年11月1日(火)より、本館2階 化学療法室(外来化学療法センター)が4床増床し、計19床の運用となりました。また、令和5年3月14日(火)には、本館1階 泌尿器科の診察室を増設しました。より多くの患者さんを診察できるよう、また、待ち時間の削減に繋げられるよう努めてまいります。



化学療法室



泌尿器科 診察室

若林病院より

◆仙台市主催「地域でつながる健幸づくりフェアin卸町」に参加しました

4月15日(土)に、イオンスタイル仙台卸町にて開催された「地域でつながる健幸づくりフェアin卸町」に、当院も協力団体の一つとして参加いたしました。同フェアは仙台市が主催し、イオン東北(株)等の企業が共催及び協力する形で年数回行われますが、今回当院はリハビリテーション部を中心に参加し、「講演」「自助具紹介」「折り紙体験」を行いました。

「健康寿命延伸に向けて」と題して理学療法士が2回行った講演は、多数のお客様にお聞きいただき、好評を博しました。「自助具紹介」では、障害や病気などによる麻痺、加齢による身体機能の低下を原因とする動作困難を補うための道具と使い方の説明を、作業療法士が行いました。減多に見ることができない道具が多く、実際に手にとり興味深くご覧になるお客様の姿が見受けられました。

「折り紙体験」では、作業療法士のサポートの下、お客様に小さな鯉を折っていただき、その鯉を合体させ、大きな鯉のぼり作品を制作いたしました。お子様から大人の方まで参加いただき、3体の大きな鯉のぼりが完成いたしました。完成作品は、病院ロビーに展示しております。(写真参照)

当日の天候は、あいにくの大雨でしたが、過去最多となるたくさんのお客様にご来場いただきました。次回開催の際にも、日時等の情報を当院のホームページにてご案内いたします。



◆CT及びマンモグラフィ装置を更新

この度、外来・入院患者様がより精密に、かつ安心・安全に検査を受けていただけるよう、CT及びマンモグラフィ装置を更新いたしました。

CT装置はSIEMENS社の最新機器「SOMATOM go.All」を採用。AI技術により開発された最新の全自動撮影システムや、新しい被ばく低減技術が搭載されており、冠動脈撮影も可能となります。撮影時間も短縮されるなど、患者様の負担が少なく、より質の高い医療に貢献できるようになりました。

マンモグラフィは、富士フイルム社の「AMULET Innovality」を採用。「高画質」「低線量」をハイレベルで両立し、撮影線量の大幅な低減、患者様の負担を軽減する制御機構で「やさしい」検査を提供します。当院では、「健診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師」が3名在籍しており、ハード・ソフト両面で専門性の高い検査を行います。

今回導入された最新医療機器の性能を最大限生かし、日々進化する高度な医療に対応できるよう、当院診療放射線技師は、多職種と密に連携を図り、患者様に寄り添いながら安全に検査が受けられるよう心がけています。



CT装置

◆高校生より花束贈呈

5月26日(金)に、聖ウルスラ学院英智高等学校の生徒さんから、当院及び当院職員の地域医療への貢献に対する感謝の気持ちを込めて、激励のメッセージと花束の寄贈を受けました。5月は、カトリック教会の伝統で、4月の復活祭と春の訪れに感謝し、聖母マリアに祈りを捧げる「聖母月」とされています。毎年行われている同校「マリア祭」の一環である「花束のお捧げ」として、3年生代表2名と先生が来院し、病院長などと面談、心温まる時間を過ごすことができました。



花束贈呈の様子



◆令和5年度事業計画・令和4年度事業報告

<令和5年度事業計画>

令和5年3月25日(土)開催の第502回理事会において、令和5年度事業計画が承認されました。事業計画における各事業領域の重要施策の概要は、以下のとおりです。

1. 教育領域

医学部・薬学部のカリキュラム改正にあたり、教育連携協議会にて医薬連携の可能性を模索するほか、教務委員会を中心としたPDCAサイクルに基づく点検結果や分野別評価に係る自己点検・評価を踏まえ教育の改善に努めます。

2. 研究領域

大学院医学研究科の開設に伴い、医学・薬学の研究交流を活性化するとともに、知的財産の管理体制やトランスレーショナルリサーチの推進体制を検討し、研究支援体制の強化を図ります。

3. 学生支援領域

学生を取り巻く環境の変化や学生の多様化に対応した取り組みを推進します。また、アフターコロナを見据えた学生支援を通じて、充実した学生生活の提供を目指します。

4. 入学者選抜領域

各種アンケートや入学後の学修状況等に基づき、入学者選抜制度の改善を図ります。また、より一層の志願者確保に向けて、入学者選抜制度の見直しや入試広報に関する取り組みを推進します。

5. 病院運営領域

附属病院において、医療機関等との連携強化に向け情報提供等を積極的に行うとともに、収益向上に向けた施策を強化し、両病院の効率的な機能分担と連携の強化を目指します。

6. 経営管理領域

収支改善を図ることにより、安定した大学経営を実現します。また、コンプライアンスの推進を図るとともに、法人内の危機管理体制を強化し適切な法人運営に努めます。

<令和4年度事業報告>

令和5年5月27日(土)開催の第506回理事会において、令和4年度事業報告が承認されました。本法人の教育・研究・附属病院の運営等の事業や財務の概要について、令和4年度の概略を記載しております。

報告は、本学ホームページ(<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/information/>)に掲載しておりますので、ご覧ください。

◆令和4年度決算

令和4年度決算は、法人監事の監査を経て理事会で承認された後、評議員会へ報告されました。また、監査法人による監査も適正意見を得ております。決算の概要は下記のとおりです。

令和4年度は、事業活動収入335.9億円(前年度比10.0億円増)から事業活動支出327.0億円(前年度比6.9億円増)を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は8.9億円(前年度比3.1億

円増)となりました。また、基本金組入前当年度収支差額8.9億円から基本金組入額17.7億円を控除した当年度収支差額は△8.8億円となりました。

決算の詳細につきましては、本学のホームページに掲載を行っておりますので、ご参照ください。

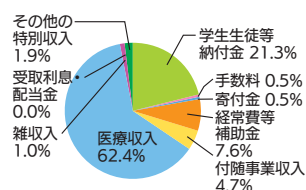
令和5年度は、大学・附属病院の収益増強と財務改善の具体化施策実施及び進捗管理による収支改善に主眼を置き、適切な財務管理に取り組んでまいりますので、関係各位のご理解とご支援をお願い申し上げます。

令和4年度事業活動収支決算(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

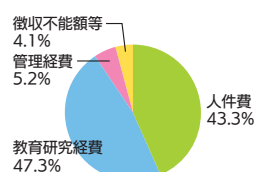
(単位:百万円)

区分	事業活動収入の部				事業活動支出の部			
	科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
教育活動収入	学生生徒等納付金	7,167	7,168	△ 1	人件費	14,173	14,146	26
	手数料	153	154	△ 1	教育研究経費	15,383	15,465	△ 82
	寄付金	154	165	△ 11	(うち、医療経費)	(7,569)	(7,537)	(31)
	経常費等補助金	2,128	2,565	△ 438	管理経費	1,768	1,696	72
	付随事業収入	1,557	1,588	△ 31	徴収不能額等	1,352	1,354	△ 1
	医療収入	20,843	20,959	△ 116	徴収免除額	1	2	△ 0
	雑収入	291	349	△ 59				
	計	32,293	32,948	△ 656	計	32,678	32,663	15
	教育活動収支差額					△ 385	286	△ 671
	受取利息・配当金	0	0	△ 0	借入金等利息	18	18	△ 0
教育活動外収入								
	計	0	0	△ 0	計	18	18	△ 0
	教育活動外収支差額					△ 18	△ 18	0
特別収入	経常収支差額					△ 403	267	△ 670
	資産売却差額	0	4	△ 4	資産処分差額	0	22	△ 22
	その他の特別収入	617	642	△ 25	その他の特別支出	0	0	0
	(うち、教育研究協力資金)	(3)	(3)	(0)				
	計	617	646	△ 29	計	0	22	△ 22
	特別収支差額					617	624	△ 7
	事業活動収入計	32,909	33,594	△ 685	事業活動支出計	32,696	32,704	△ 8
					予備費	140		140
					基本金組入前当年度収支差額	74	891	△ 817
					基本金組入額	△ 1,641	△ 1,769	128
					当年度収支差額	△ 1,568	△ 878	△ 689

事業活動収入の部



事業活動支出の部



◆役員及び評議員の概要

令和5年3月25日(土)、4月5日(水)開催の理事会・評議員会において、役員及び評議員の退任に伴う後任者の選任が行われました。なお、選任後の役員及び評議員は以下のとおりです。

＜理事＞定数7～9名、現員8名、任期4年 ※学長理事は3年

氏 名	主な現職等
高柳 元明(理事長)	前東北医科薬科大学 学長
高柳 和枝	高柳内科医院 院長
櫻田 忍	オピオイド研究所 所長
和田 裕一	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 名誉院長
大野 勲	東北医科薬科大学 学長
吉村 祐一	東北医科薬科大学 薬学部長
福田 寛	元東北医科薬科大学 医学部長
黒崎 米造(新任)	東北医科薬科大学 事務局長
佐藤 賢一(新任)	東北医科薬科大学附属病院 統括病院長

＜監事＞定数2～3名、現員3名、任期4年

氏 名	主な現職等
千葉 信博	株式会社カントリークラブ 監査役(非常勤)
佐藤 克巳	東北労災病院 名誉院長
一條 宏	株式会社医療経営研究所 代表取締役

＜評議員＞定数15～20名、現員19名、任期4年 ※学長評議員は3年

高柳 元明(理事長) 大野 勲(学長) 吉村 祐一 加藤 君子 小澤 浩司(新任)
 櫻田 忍 北村 哲治 福田 寛 佐藤 厚子 柴田 近(新任)
 高柳 和枝 瀬戸 初江 佐藤 賢一 黒崎 米造 畑中 亨(新任)
 和田 裕一 原 忠篤 赤井 裕輝 山田 純司

◆令和4年度外部資金獲得状況

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省)

(単位:円)

	医学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	26	32	58	25
直接経費	33,900,000	36,000,000	69,900,000	5,520,000
間接経費	10,170,000	10,800,000	20,970,000	1,656,000
合 計	44,070,000	46,800,000	90,870,000	7,176,000

	薬学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	13	31	44	4
直接経費	19,600,000	35,200,000	54,800,000	4,925,000
間接経費	5,880,000	10,560,000	16,440,000	1,477,500
合 計	25,480,000	45,760,000	71,240,000	6,402,500

	教養教育センター・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	1	2	3	2
直接経費	600,000	1,500,000	2,100,000	1,100,000
間接経費	180,000	450,000	630,000	330,000
合 計	780,000	1,950,000	2,730,000	1,430,000

	その他・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	1	2	3	0
直接経費	1,100,000	1,200,000	2,300,000	0
間接経費	330,000	360,000	690,000	0
合 計	1,430,000	1,560,000	2,990,000	0

※その他内訳: 本学附属病院職員

	全学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	41	67	108	31
直接経費	55,200,000	73,900,000	129,100,000	11,545,000
間接経費	16,560,000	22,170,000	38,730,000	3,463,500
合 計	71,760,000	96,070,000	167,830,000	15,008,500

※移管分を含む、期間延長分・繰越分除く

(2) 科学研究費助成事業(厚生労働省)

(単位:円)

	全学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	0	0	0	8
直接経費	0	0	0	4,025,000
間接経費	0	0	0	0
合 計	0	0	0	4,025,000

※移管分を含む、期間延長分・繰越分除く

(3) 受託研究費等

(単位:円)

	医学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件 数	23	9	98	130
直接経費	200,222,298	0	72,033,250	272,255,548
間接経費	62,761,770	0	7,859,250	70,621,020
合 計	262,984,068	0	79,892,500	342,876,568

	薬学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件 数	6	18	9	33
直接経費	18,040,000	22,718,620	7,401,000	48,159,620
間接経費	3,927,000	1,881,000	489,000	6,297,000
合 計	21,967,000	24,599,620	7,890,000	54,456,620

	全学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件 数	29	27	107	163
直接経費	218,262,298	22,718,620	79,434,250	320,415,168
間接経費	66,688,770	1,881,000	8,348,250	76,918,020
合 計	284,951,068	24,599,620	87,782,500	397,333,188

※文部科学省共同利用・共同研究拠点事業除く

(4) 教育研究協力資金

(単位:円)

	個 人	企業・団体	合 計
件 数	446	4	450
金 額	18,219,890	32,010,000	50,229,890

医薬連携など

◆医薬研究交流会

「医薬研究交流会」は、平成28年に本学に医学部が開設されたことを契機に、本学の医薬融合と共同研究推進を目的として平成29年の10月に発足し、今年度で7年目を迎えることとなりました。

5月10日(水)には、「糖鎖と疾患」をテーマとした第17回医薬研究交流会が開催されました。当日は、福室キャンパスを会場としながら、Zoomでの参加も可能なハイブリッド形式にて行われ、多くの方々にご参加いただきました。

また、ご都合が合わなかった方々がおられることを鑑み、当日の内容をオンデマンドにて配信を行っております。今後も引き続き、本学の研究推進のための取り組みを行ってまいります。

◆教育連携協議会について

令和6年度入学生から適用される医学部・薬学部の新モデル・コア・カリキュラムは、医学・歯学・薬学の教育内容の一部共通化が図られ、地域医療等の医薬共通の教育内容が設定されています。そこで、医薬連携科目の設置へ向けて、医学部・薬学部・教養

教育センターの横断的組織である「教育連携協議会」を十分に活用し、何度も協議を重ねてまいりました。設置へ向けて様々な課題はありましたが、複数の科目において医薬連携科目の設置が実現し、医学部生・薬学部生が相互に学び合い、高めていく、本学独自のカリキュラムが完成いたしました。新しい教育の形に期待は膨らむ一方です。

◆早期体験学習

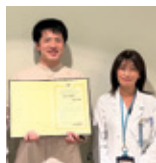
1年次では早期体験学習として、薬学科は「薬学入門演習」、医学科は「早期医療体験学習」を開講しています。この科目では、患者さんとその家族の気持ちや生活を理解するという、医療人に必要な心構えを身につけることを目的の一つとしています。授業の一環として、薬学科と医学科合同で半身麻痺、視覚・聴覚障害、高齢者、内部障害をもつ方々の生活を体験する「ハンディキャップ体験」を行いました。視覚障害の疑似体験では、アイマスクを装着し障害物のあるコースや点字ブロックの上を、白杖を使いながら歩きました。何も見えない恐怖から、なかなか歩みを進められない様子で、ハンディキャップを抱える方々が日常的に感じる不自由さを体感していました。

トピックス

◆受賞

※役職・学年は当時のもの

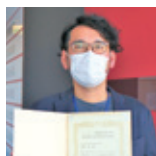
■医学部医学科6年の柳澤直さんが、第119回日本内科学会総会「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2022京都」(令和4年4月16日)で優秀演題賞を受賞しました。併せて、城田祐子准教授(内科学第三(血液・リウマチ科)教室)も指導教官賞を受賞しました。



■薬学研究科薬学専攻博士課程1年(臨床感染症学教室)の田村友梨奈さんが、10月26～29日に開催された第69回日本化学療法学会東日本支部総会で奨励賞を受賞しました。



■薬学部病態生理学教室の河野資講師が、11月3日開催のアレルギー・好酸球研究会2022でExcellent presentation awardを受賞しました。



■薬学研究科薬学専攻博士課程2年(病態生理学教室)の池瑛莉奈さんが、11月9～11日に名古屋国際会議場で開催された第95回日本生化学会大会で若手優秀発表賞を受賞しました。



■薬学部放射薬品学教室の山本由美助教が、令和4年度日本薬学会東北支部奨励賞を受賞しました。



■薬学部環境衛生学教室の山縣涼太助教が、1月27日に開催された令和4年度メチル水銀研究ミーティングで若手研究奨励賞を受賞しました。



■医学部医療管理学教室の伊藤弘人教授が、地区防災計画学会において、「地区防災計画と病院業務継続計画」の研究で奨励賞を受賞しました。



■3月25～28日に北海道大学で開催された日本薬学会第143年会において、薬学研究科薬科学専攻博士課程前期課程1年(分子認識学教室)の佐藤彬翔さん、薬学研究科薬学専攻博士課程令和4年度卒業(微生物学教室)の関根僚也さん、薬学部薬学科令和4年度卒業(病態生理学教室)の石堂聖さんが、審査対象演題1159件のポスター発表の中から優秀発表賞を受賞しました。



トピックス

◆永年勤続者表彰について

5月20日は本学の創立記念日です。

本学では、毎年創立記念日に永年勤続表彰を行っており、今年度の対象者81名に高柳理事長から感謝を綴った挨拶状・表彰状・記念品が贈呈されました。

【表彰者の内訳】

大学：20名 本院：56名 若林病院：5名



◆表彰・感謝状

※役職は当時のもの

■1月31日、医学部感染症学教室（東北医科薬科大学病院感染症内科）の遠藤史郎准教授（右）と鈴木潤助教が、宮城県の新型コロナウイルス感染症対策として推進したケア付き宿泊療養施設の設置・運営において、その功労を称え宮城県より表彰されました。



■5月26日、児童虐待事案等の捜査への専門的見地からの協力により人身の安全確保に貢献したとして、警視庁人身安全関連事案総合対策本部から、医学部法医学教室の高木徹也教授（左）へ感謝状が贈呈されました。



◆部活動報告

※学年は当時のもの

■令和4年度東北地区大学準硬式野球秋季リーグ戦（2部リーグ）（令和4年9月から開催）において、薬学部薬学科4年で主将の小嶋良尚さんが優秀選手賞を受賞しました。



■第35回北日本医科学生陸上競技大会（5月14日、秋田県立中央公園県営陸上競技場）において、本学陸上部の学生が複数入賞しよい成績を納めました。



教室紹介

◆医学部 内科学第二（糖尿病代謝内科）教室 （教室責任者：澤田 正二郎教授）

当教室では臨床に基づいた糖尿病学の研究に取り組んでいます。糖尿病患者さんの血糖値は食後に高くなり、インスリン製剤などの薬物により低血糖になることもあります。このような血糖変動を解消し、安心して生活できる

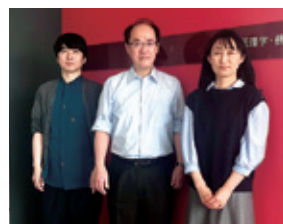


内科学第二（糖尿病代謝内科）教室のスタッフ

治療法の開発を行っています。日々の血糖変動は日常生活に依存するため、自己管理行動（セルフケア）を促す教育法の開発に力を入れています。先進的な糖尿病治療（インスリンポンプや持続血糖モニターなど）の積極的な導入と治療効果の解析も行っています。さらに糖尿病合併症への積極的な取り組みを行ってきており、糖尿病性腎症に対する多面的治療介入（食事療法、血糖、血圧、脂質管理など）の有効性を報告してきました。東北医科薬科大学病院は全ての診療科が揃う大学病院の特質上、われわれは様々なタイプの糖尿病を診療する機会に恵まれています。内分泌代謝・糖尿病内科（領域）専門医ならびに糖尿病専門医を取得できるプログラムを用意しています。教育活動としては、医学部3年次の内分泌学・代謝学、4～5年次の診療科臨床実習を中心に担当し、当教室スタッフ一丸となって臨床糖尿病学の魅力を伝えていきます。

◆薬学部 機能形態学教室 （教室責任者：溝口 広一教授）

機能形態学は、解剖学や生理学の内容を含むと共に生化学や薬理学とも密接に関連する現代医療の基礎といえる領域です。当研究室は、疾病や薬物療法を理解するための基礎科目として、薬学科の「ヒトのからだ」「人体生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「薬理学Ⅲ」、



機能形態学教室のスタッフ

生命薬科学科の「生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「薬理学Ⅲ」及び両学科の薬理学系実習を担当しています。研究においては「難治性疼痛」をキーワードに、新しい疼痛緩和医療の確立を目指し研究を重ねています。組織変性（神経変性）に基づく疼痛の多くは、既存の鎮痛薬でコントロールすることが難しい「難治性疼痛」であり、臨床で大きな問題となっていることから、当研究室では「神経損傷性神経障害性疼痛」、「炎症性疼痛」、「多発性硬化症疼痛」、「間質性膀胱炎/膀胱痛症候群」の各種病態モデル動物を作成し、疼痛メカニズムの解明ならびに特異的治療薬の開発を目標に掲げ、教室員一丸となって研究に取り組んでいます。

同窓会より

◆叙勲

卒業生が受章されました。
心からお祝い申し上げますとともにますますのご活躍を心より祈念いたします。

◆春の叙勲 令和5年

〈文部科学省関係〉

【瑞宝双光章】

竹田 昭一 様 元 学校薬剤師
昭和39年卒業(大学12回生) (青森県)

安岡 俊博 様 現 学校薬剤師
昭和46年卒業(大学19回生) (北海道)

〈厚生労働省関係〉

【旭日双光章】

大谷 道男 様 元 岩手県薬剤師会副会長
昭和46年卒業(大学19回生) (岩手県)

宮井 裕之 様 元 北海道薬剤師会副会長
昭和49年卒業(大学22回生) (北海道)

◆第6回ホームカミングデイのお知らせ

同窓会では母校東北医科薬科大学において第6回ホームカミングデイを開催いたします。この会は、期間にかかわらず本学に在籍されたすべての方々(卒業生、教職員OB・OG、学生、大学院生、研究生、現教員や事務職員など)を対象として、年に一度母校に集い旧交を温め親睦を深めていただくことを目的としております。

コロナ禍の中で3年ぶりの開催となります。本年度は大学祭の開催に合わせ令和5年10月8日(日)午前11時より、小松島キャンパスにおいて、本学特任教授 賀来 満夫先生の講演会、昼食座談会などの企画にて皆様のご参加をお待ちしております。

参加費は無料ですので、どなた様もお誘い合わせの上、是非お気軽にご参加ください。会場などの詳細につきましては決定次第、HPなどでお知らせいたします。

参加者の人数把握のため参加ご希望の方は、事前に同窓会宛に電話またはメールにてご連絡くださいますようお願い申し上げます。

同窓会事務局 担当:白石

電話:022-234-4181 E-mail: dosokai2@tohoku-mpu.ac.jp

二松会より

令和5年度二松会総会について

二松会とは、在学生の保護者によって組織され、大学及び社会との緊密な連繋を保ち、学生の教育に協力し、学生生活に適した事業を行うことにより教育の進展に寄与し、その効果を上げることを目的としている組織です。

令和5年度の二松会総会につきましては、書面開催とさせていただきます。8月中旬を目途に皆様へご案内させていただきます予定です。

令和5年度在学生保護者教育懇談会開催案内

本年度の在学生保護者教育懇談会(仙台開催)を、薬学部は小松島キャンパス、医学部は福室キャンパスにて、9月30日(土)に行います。

また、仙台以外の地区で行う懇談会を、薬学部では10月14日(土)に山形市、郡山市で行います。

開催案内、詳細につきましては8月中旬を目途に送付予定ですので、是非、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

●薬学部 在学生保護者教育懇談会

〈仙台開催〉 日程:9月30日(土)
会場:東北医科薬科大学
小松島キャンパス

〈山形開催〉 日程:10月14日(土)
会場:山形市(山形グランドホテル)

〈郡山開催〉 日程:10月14日(土)
会場:郡山市(郡山ビューホテルアネックス)

●医学部 在学生保護者教育懇談会

〈仙台開催〉 日程:9月30日(土)
会場:東北医科薬科大学
福室キャンパス

ご寄付のお願い(教育研究協力資金)

本学では教育・研究のための環境整備などを目的として、継続的に皆様からのご支援を受け付けております。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

＜寄付申し込み方法(個人でのお申込み)＞

- ・インターネット:クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy決済よりお選びいただけます。QRコードまたは以下URLよりお手続きください。(教育研究協力資金URL: <https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/donation/>)
- ・銀行振込:振込用紙を送付いたしますので以下の問い合わせ先までご連絡ください。



＜問い合わせ先＞

財務部財務課 TEL:022-234-4181(代表) E-mail: kifukin@tohoku-mpu.ac.jp



東北医科薬科大学 広報委員会

〒981-8558 仙台市青葉区小松島4丁目4番1号
電話番号 022(234)4181(代) FAX 022(275)2383
URL <https://www.tohoku-mpu.ac.jp/>

本学公式SNSへのご登録はこちら

東北医科薬科大学
Facebook



ご登録は
こちらから



東北医科薬科大学
Twitter



ご登録は
こちらから

